

平野ヶ丘



校長室のひとりごと

『よい習慣は、人を美しく見せる』

校長 熊崎 健一

ある日の夕方。おりベストリートへとつながる本町変則五叉路の交差点。横断歩道を一人の中学生が渡っています。ぎっしり中身の詰まったカバンを背負い、さらに手にはサブバッグを持って足早に私の車の前を横切っていきます。背格好からすると2年生?いや、1年生?ぐらいでしょうか…。横断歩道を渡り切った彼は、坂上方面から下りてきて左折待ちをしているトラックのドライバーに向かい、大きくはっきりとした声で「ありがとうございました!」とお礼を言った後、トラックに正対して深々とお辞儀をしました。実に“美しい姿”でした。彼は、間違いなく多治見中学校の生徒。そして、おそらく養正小学校の卒業生です。

彼もきっと数年前まで通学班のリーダーとして下学年の仲間を連れて登校していたでしょう。そして、さらにその前には下級生としてお兄さん・お姉さんの立ち振る舞いを見て学んでいたことでしょう。そうやって積んできた経験が、よい習慣として発揮された瞬間でした。

私は、小学生にも中学生にもよく話すことがあります。それは「一日に決まって何度もすることや時間をたっぷり費やすことほど、自分の成長にとって大切なものなんだよ。」というお話です。一日三度の食事、運動や学習、睡眠、排泄、あいさつなど、よく考えてみれば、私たちのくらしのほとんどは様々な習慣によって形作られているのです。その一つひとつを成長の過程に合わせて着実に身に付けていくことが“美しい姿”へとつながっていきます。

一方で、人間ですから、まして子供ですから毎日何度もやらなければいけないので逆に疎かになってしまうという弱さがあることも事実です。だからこそ私たち大人は、子供にどう行動すればよいかを教え、お手本を示し、どんな選択をするのかを見届け、ほめたりたたなめたりしながら“成長の芽”を育まねばなりません。いつか子供たちが“美しい大人”になれるように…。



そこで!“たじっ子チャレンジ”に取り組んでみましょう!!

多治見市では、幼保小中一貫教育として『習慣向上プロジェクトたじみプラン』に基づく取組を行っています。その一環として“たじっ子チャレンジ”カードを配付しました。生活・運動・学習の各習慣について、年間3回チェックします。低学年は親子で、高学年は自分で記入します。数ヶ月間をまとめてザックリと振り返るのですが、これが大事!時々自らの(我が子の)歩みを振り返って見つめることが意識を高めます。意識が高まれば行動が変わります。行動し続けることでよい習慣が身に付きます。そして、一度手に入れたよい習慣は、生涯の支えとなります。

